

企業景況・動向調査

●はじめに

「せいしんビジネスクラブ」新春講演会開催時に、当地区企業の景況・動向調査を目的としたアンケートを実施した。概要は以下の通り。

●調査概要

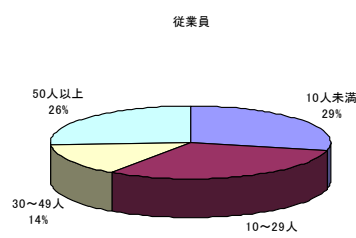
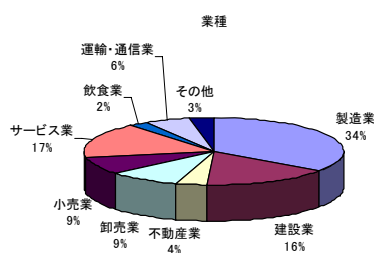
調査時期 : 平成30年1月23日(火)「せいしんビジネスクラブ 新春講演会」開催時

調査対象 : 静清信用金庫取引先企業の経営者および後継者で構成する異業種交流会
「せいしんビジネスクラブ」会員

調査対象企業数 : 193社 有効回答企業数 : 128社 有効回答率 : 66.3%

《業種内訳 (n=128)》

《従業員規模内訳 (n=128)》



●要旨

～ 今期決算は、4割強が「増収」、9割弱が「黒字」の見通し～
 ～ 今後の懸念材料として、6割を超える中小企業が「人材確保」と回答～
 ～ 人材確保難に対応し、業務改善による「生産性向上」に取り組む企業が増加～

◆ 売上高および経常利益の実績と見通しについて

- ・前期の売上高実績は、「増加」とする回答が46.8%で最多となった。
- ・今期の売上高見通しは、「増加」が42.9%で最多となった。
- ・前期の経常利益実績は、「黒字」が83.2%と大半を占めた。
- ・今期の経常利益見通しは、「黒字」が87.5%と、収益環境は引き続き良好である様子が窺えた。

◆ 雇用状況・採用予定について

- ・現在の雇用状況は、「不足」が64.3%で最多となった。平成29年1月調査(以下、前年調査)から「不足」は拡大傾向(+10.5ポイント)にあり、6割を超える企業が「人材不足」に悩んでいる様子が窺えた。
- ・採用予定については、前年調査に比べ「未定」の割合が多いが、中途採用については、前年調査より+5.4ポイントと増加しており、即戦力となる人材を積極的に雇用する姿勢が窺えた。

◆ 設備投資について

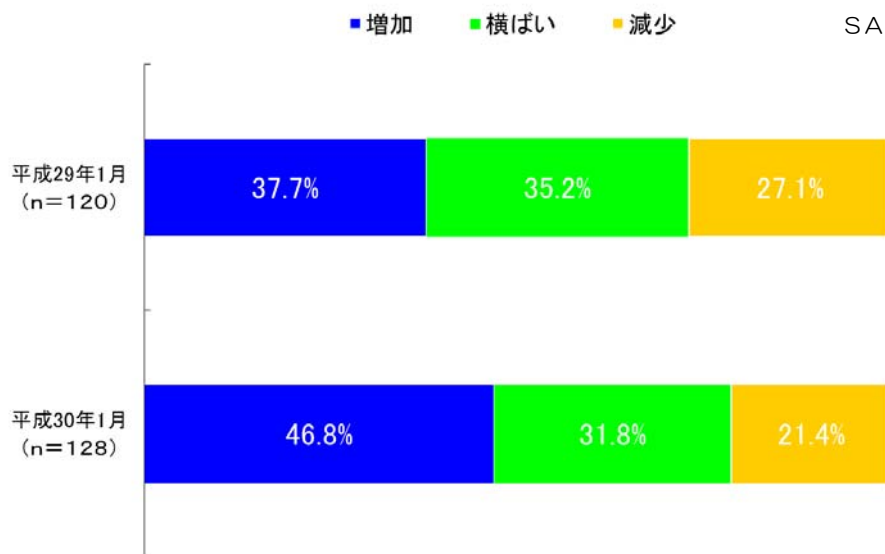
- ・設備投資に対して積極的企業(「1年内に行う」「2～3年以内に行う」の合計)は60.3%と、前年調査に比べ、+4.5ポイントと増加しており、設備投資意欲は更に高まっている様子が窺えた。

◆ 今後の懸念材料・経営課題について

- ・今後の懸念材料については、「人材の確保」が61.7%で最多となり、次いで「人材の育成」(44.5%)となった。
- ・一方、経営課題は、「コスト削減・業務効率化」が74.2%で最多となり、次いで「営業力の維持・強化」(50.8%)、「人材確保・育成」(46.9%)となった。
- ・今後も労働人口は減少傾向であることから、少人数でも経営ができるよう、業務改善による「生産性向上」を優先する動きが目立った。

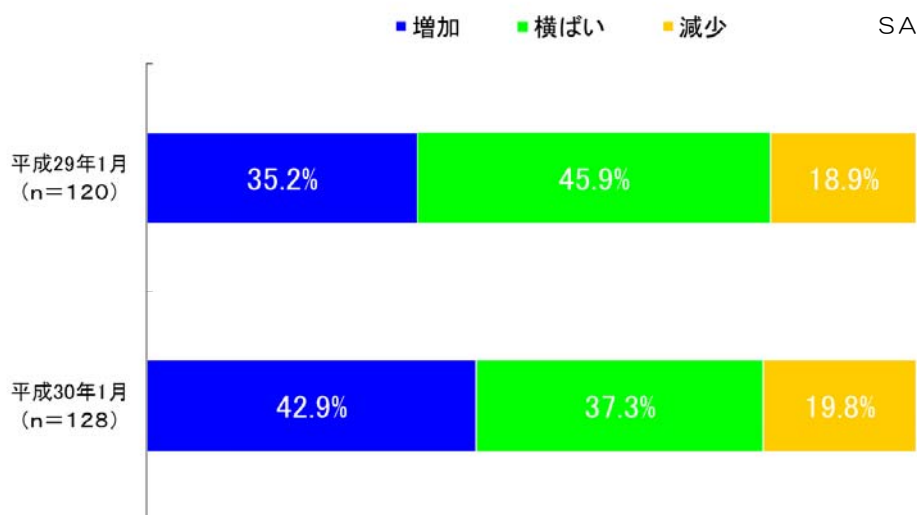
1. 売上高の実績と見通しについて

1-1. 前期の売上高実績について



前期の売上高実績は、「増加」が46.8%で最多となり、次いで「横ばい」(31.8%)、「減少」(21.4%)となった。平成29年1月の調査(以下、前年調査)に比べ、「増加」が+9.1ポイントと増加しているのに対し、「横ばい」が▲3.4ポイント、「減少」は▲5.7ポイントと減少しており、全体的に売上が増加している様子が窺えた。

1-2. 今期の売上高見通しについて

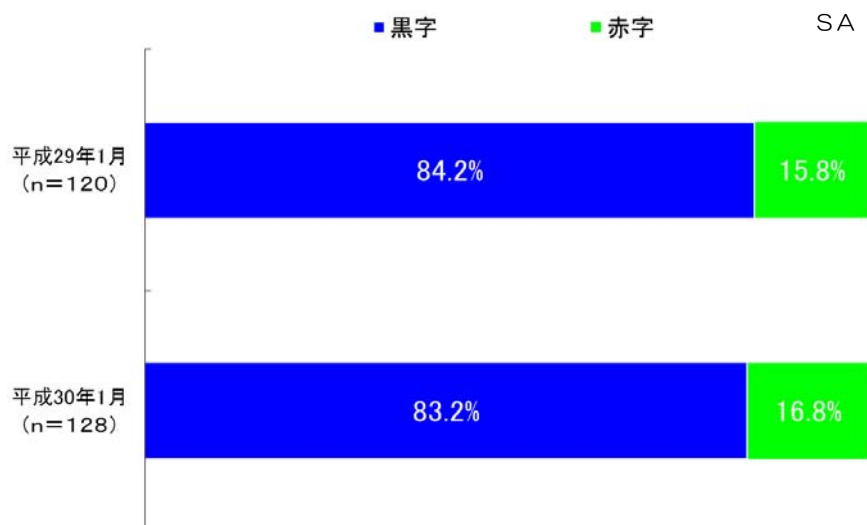


今期の売上高見通しは、「増加」が42.9%で最多となり、次いで「横ばい」(37.3%)、「減少」(19.8%)となった。

前年調査に比べ、「増加」は+7.7ポイントと増加している一方で、「横ばい」が▲8.6ポイントと減少しており、今期の売上高についても、全体的に明るい見通しを示した。

2. 経常利益の前期実績と今期見通しについて

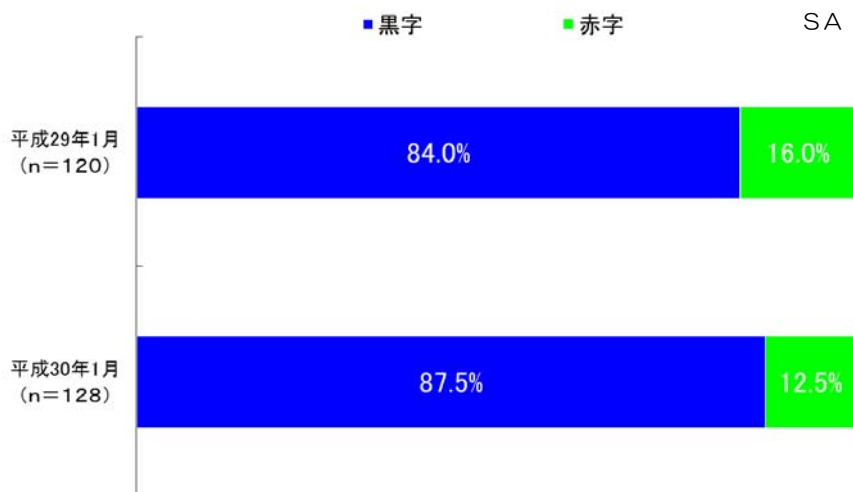
2-1. 前期の経常利益実績について



前期の経常利益実績は、「黒字」が83.2%と大半を占めた。

前年調査に比べ、「黒字」が▲1.0ポイントと減少しているものの、大半の企業が黒字決算であり、好調な収益環境であることが窺えた。

2-2. 今期の経常利益見通しについて

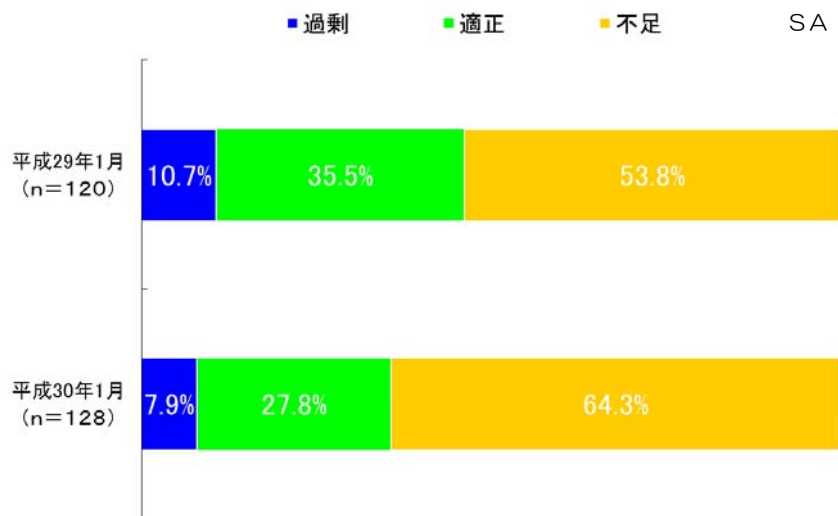


今期の経常利益見通しは、「黒字」が87.5%と、「2-1. 前期の経常利益実績について」の調査結果と同様に大半を占めた。

前年調査に比べ、「黒字」が+3.5ポイントと増加しており、収益環境は引き続き良好である様子が窺えた。

3. 雇用状況について

3-1. 現在の雇用状況について

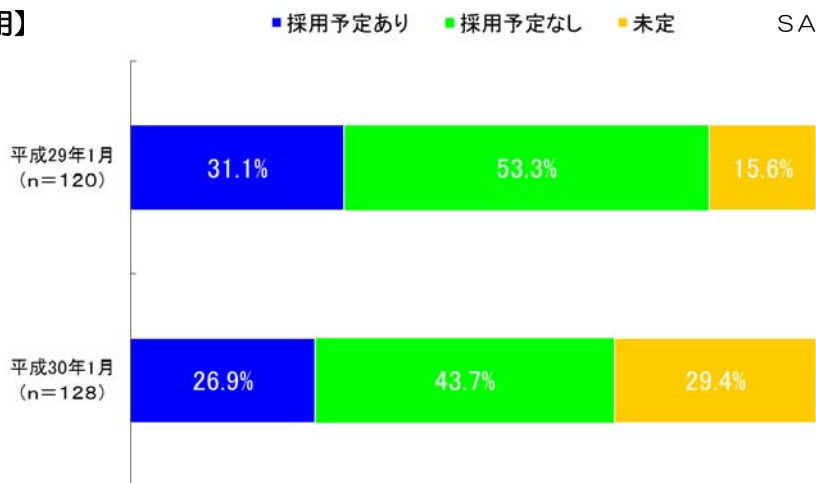


現在の雇用状況について尋ねたところ、「不足」が64.3%で最多となり、次いで「適正」(27.8%)、過剰(7.9%)となった。

前年調査に比べ、「不足」が+10.5ポイントと増加し、「適正」は▲7.7ポイント、「過剰」は▲2.8ポイントと減少しており、人材不足感が更に強まっていることが窺えた。

3-2. 今年(平成30年4月)の採用予定について

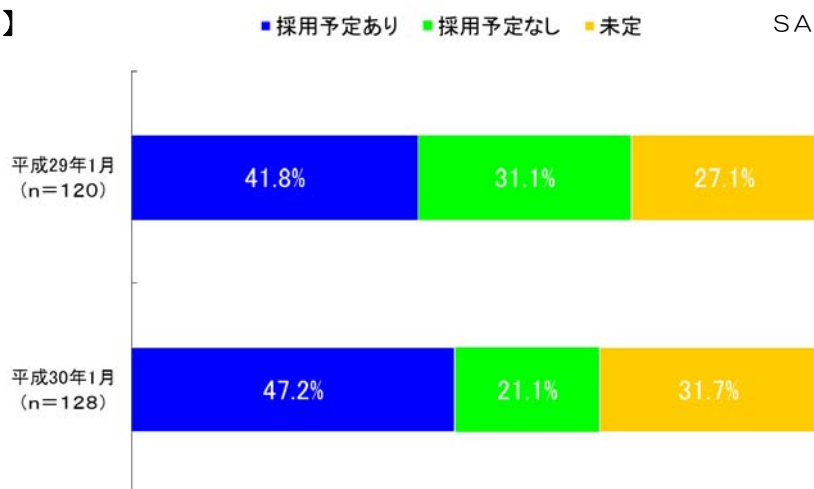
【新卒採用】



新卒採用について尋ねたところ、「採用予定なし」が43.7%と最多となり、次いで「未定」(29.4%)、「採用予定あり」(26.9%)となった。

前年調査に比べ、「採用予定なし」は▲9.6ポイントと減少しており、新卒採用も視野に入れ検討している様子が窺えた。

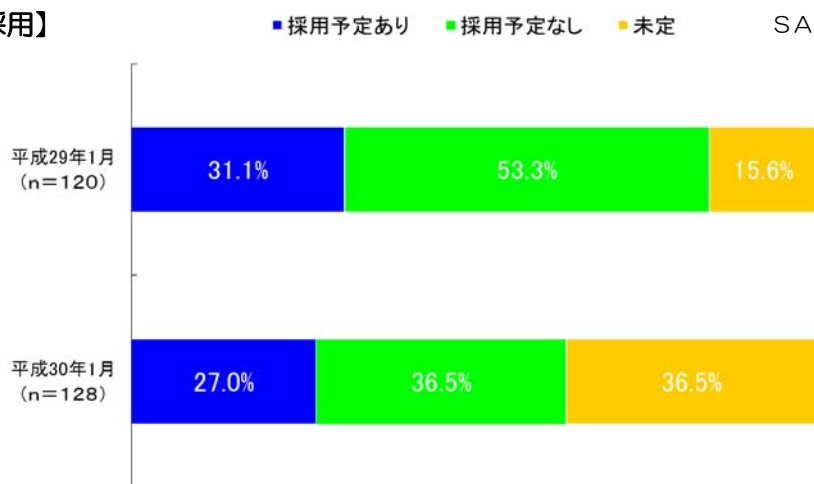
【中途採用】



中途採用について尋ねたところ、「採用予定あり」が47.2%と最多となり、次いで「未定」(31.7%)、「採用予定なし」(21.1%)となった。

前年調査と比べ、「採用予定あり」が+5.4ポイントと増加しており、中途採用に積極的な姿勢を見せるなど、即戦力を臨んでいる様子が窺える。

【非正規採用】

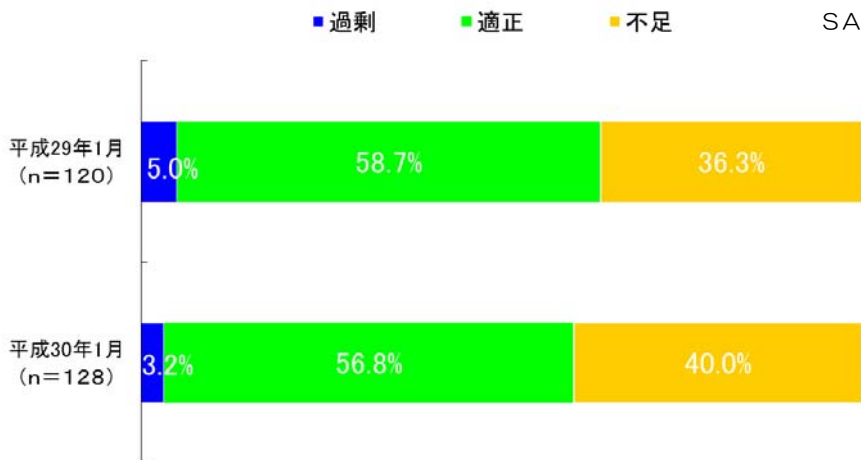


非正規採用について尋ねたところ、「採用予定なし」「未定」がともに36.5%となり、「採用予定あり」は27.0%となった。

前年調査と比べ、「採用予定なし」が▲16.8ポイントと減少しており、非正規での人材補充を視野に入れている様子が窺えた。

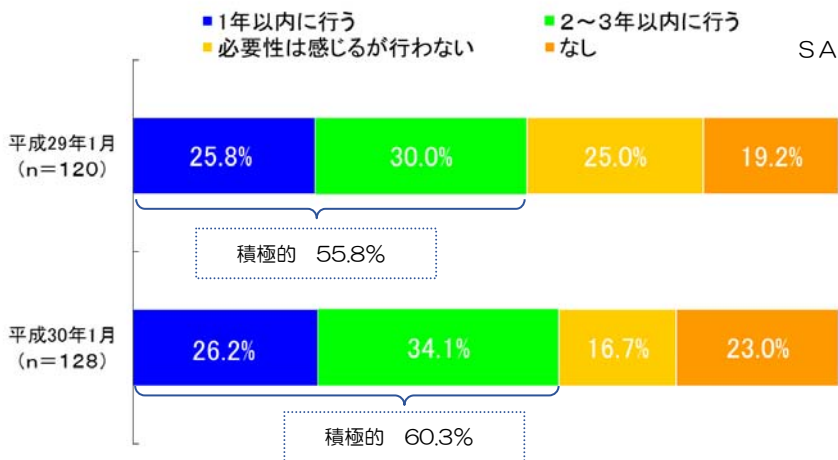
4. 設備投資について

4-1. 現在の設備状況について



現在の設備状況について尋ねたところ、「適正」が56.8%で最多となった。次いで「不足」(40.0%)、「過剰」(3.2%)となった。4割の企業で設備が「不足」している状況であり、前年調査に比べても、+3.7ポイントと増加するなど、設備の不足感が高まっている様子が窺えた。

4-2. 今後の設備投資の予定について



今後の設備投資の予定について尋ねたところ、「2~3年以内に行う」が34.1%で最多となり、次いで、「1年以内に行う」(26.2%)、「なし」(23.0%)、「必要性を感じるが行わない」(16.7%)となった。

設備投資に対して積極的企業(「1年以内に行う」「2~3年以内に行う」の合計)は60.3%と、前年調査に比べ、+4.5ポイントと増加しており、設備投資意欲は更に高まっている様子が窺えた。

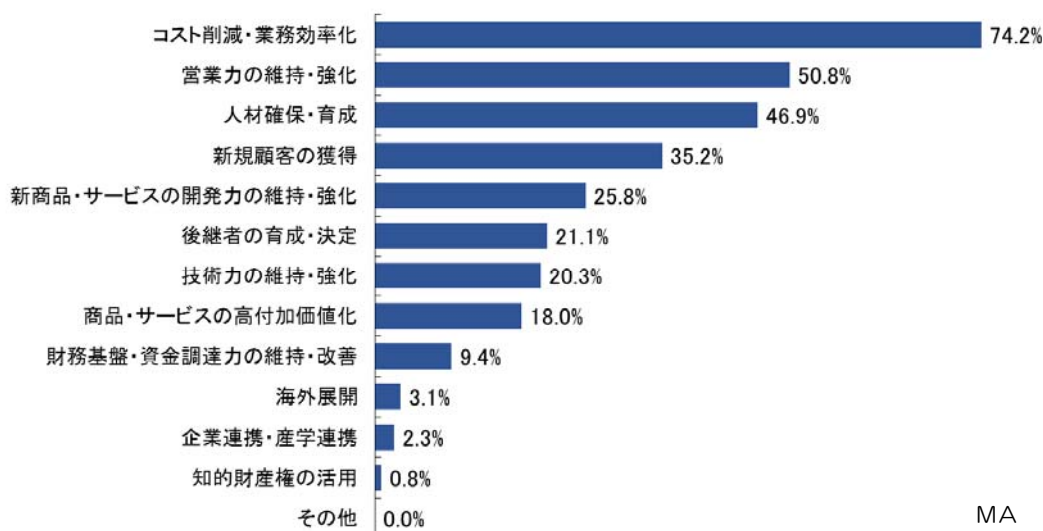
5. 今後の懸念材料について



今後の懸念材料について尋ねたところ、「人材の確保」が61.7%で最多となり、次いで「人材育成」(44.5%)、「競合他社との競争激化」(42.2%)、「個人消費の動向」(25.8%)となった。

人材に関する懸念事項が突出して高く、企業間での人材獲得競争は、更に激化しそうだ。

6. 平成30年において重視する経営課題について



平成30年において重視する経営課題を尋ねたところ、「コスト削減・業務効率化」が74.2%で最多となり、次いで「営業力の維持・強化」(50.8%)、「人材確保・育成」(46.9%)となった。

「5. 今後の懸念材料について」では人材関連項目が上位を占めたが、今後の課題としては、「コスト削減・業務効率化」を優先する様子が窺えた。

労働人口は今後も減少傾向であることから、少人数でも経営ができるよう、業務改善による「生産性向上」に取り組む動きが目立った。

(静清信用金庫 経営相談部 平成30年2月作成)